

運動負荷²⁰¹Tl 心筋シンチによる肥大心の検討

五十嵐 豊*, 元田 憲*, 中山 章*, 布田 伸一*,
水野 清雄*, 名村 正伸*, 末松 哲男*, 杉原 範彦*,
北 義人*, 堀田 祐紀*, 島田 敏實*, 源 雅弘*,
清水 邦芳*, 竹田 亮祐*, 分校 久志,*** 多田 明***,
中嶋 憲一,*** 久田 欣一***

目的：肥大心の微小循環障害に関して運動負荷²⁰¹Tl 心筋シンチを施行し検討した。

対象：金沢大学第二内科に心愁訴を主訴として受診し、左右冠動脈造影を実施し異常を認めず、心室造影を施行した肥大型心筋症14例（男性13例、女性1例、年令50±16才：HCM群）、高血圧症7例（男性6例、女性1例、年令47±12才：HT群）である。HCMの診断は、①既往、現病歴、臨床検査所見に心肥大の成因になり得る病因がなく、②心室造影上、中隔厚15mm以上、中隔厚／後壁厚比1.3以上の非対称性中隔肥厚を呈するものと、更に原因不明の壁肥厚を伴うものも加えた。HTの診断は、本態性高血圧症で外来時血圧160/95mmHg以上のものとした。

方法：運動負荷は、自転車エルゴメーターを用い、仰臥位にて25wattより開始し2分毎25wattずつ増量する多段階的負荷を行い、亞最大負荷時に²⁰¹Tl 2～3mCiを静注した。負荷終了約10分後に負荷直後像として高分解能コリメータを装着したTechnicare社製Σ410S大視野ガンマカメラを用いて4方向を撮影し、更に3時間後像を撮影した（図1）。同時にデータ処理装置VIP450に記録し、視覚的判定を行った。更に局所のwashout ratio(W-R) [(負荷直後count)-(3時間後count)]/(負荷直後count)]をcircumferential profile解析(CFP解析)によって評価した。正常者から求めた基準曲線以下のW-R曲線部分をスコアとして算出し、25以上の部位をW-R低下領域とした。⁴⁾

結果：負荷心筋シンチ上、視覚的判定において灌流欠損を認めたもの（陽性例）は、HCM群は14例中4例（29%）であり、HT群は7例中0例（0%）であった。これら陽性例は、全例負荷直後像のみに欠損を認め、3時間後像にて再分布を認めるstress-induced defectであった。左室造影による壁運動障害は認められなかった（図2）。¹⁾²⁾³⁾局所のW-Rの検討においては、HCM群では14例中7例（50%）、HT群では7例中1例（14%）の

W-R低下領域を得た。心室造影上、同領域はHCM群では壁肥厚部とよく合致し、HT群では壁運動低下を認めた。HCM群では、視覚的判定陽性例4例全てを包括していた（図3）。W-R低下領域を認める陽性群と、認めない陰性群では、HCM群では、平均年令、心胸郭比、心電図上SV₁+RV₅、左室駆出率、左室拡張終期圧に有意差を認めず、陽性群において心室造影で求めた心室中隔厚、心室中隔厚／後壁厚比において有意の高値、運動負荷量の指標としたdouble productの亞最大負荷時の値は有意の低値を認めた（図4）。

総括：CFP解析によるW-R低下領域はHCM群では50%に存在し、HT群の13%に比して高値であった。心室造影所見との比較では、同領域はHCM群では壁肥厚部とよく合致し、壁運動低下等の異常は認めず、HT群では壁運動低下を認めた。以上より、対象は全例有意冠動脈狭窄は認めず、CFP解析によるW-Rの検討は、局所心筋のより定量的な血流循環を反映すると考えられ、肥大心とりわけHCMの心筋肥大及び心筋障害の成因の1つとしてMicroangiopathyの関与が示唆された。

Reference

- Pitcher,D., et al: Assessment of chest pain in hypertrophic cardiomyopathy using exercise thallium-201 myocardial scintigraphy. Br. Heart J., 44:650, 1980.
- Hanrath,P., et al: Myocardial Thallium-201 imaging in hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Eur. Heart J., 2:177, 1981.
- Riendersfolmer,S.C.C., et al: Myocardial perfusion imaging and regional ischemia in hypertensive patients. Eur.J.Clin.Invest., 11:291, 1981.
- 多田 明他：負荷心筋シンチにおける局所washout ratioの完全自動測定の有用性。核医学, 20:1329, 1983.

*金沢大学 第二内科

** 同 核医学科

*** 国立金沢病院 放射線科

PROTOCOL OF MULTISTAGE EXERCISE TESTING

WITH ^{201}TI MYOCARDIAL SCINTIGRAM
USING BICYCLE ERGOMETER

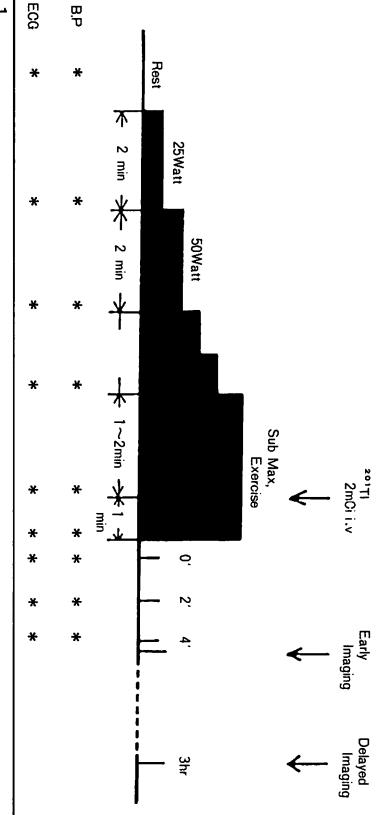


図1

Comparison between ^{201}TI Myocardial Scintigram and LVG
(Early image)

	Scintigram		LVG
Case	Defect	Inhomogeneous distribution	segment number of Hypokinesis
1. A.I	Inferior	(—)	(—)
2. O.Y	Apical	(—)	(—)
3. K.Y	Anterior	(—)	(—)
4. K.Y	Septal	(—)	(—)
5. M.N	Apical	(—)	(—)
6. Y.K	Anterosept.	(—)	(—)
7. O.T	Anterosept.	(—)	(—)

図2

Findings of ^{201}TI Myocardial Scintigram

Case	Computer-Analysed Washout curve	Review	
		Early defect	Delayed defect
1. A.I	Anterosept.	Inferior	(—)
2. O.Y	Anterosept.	Apical	(—)
> Interopost. > Apical	Anterior	Septal	(—)
3. K.Y	Anterosept.	Anterior	(—)
4. K.Y	Anterosept.	Apical	(—)
5. M.N	Anterosept.	(—)	(—)
6. Y.K	Anterosept.	(—)	(—)
7. O.T	Anterosept.	(—)	(—)

図3

Comparison between Positive group and Negative group by ^{201}TI Myocardial Scintigram

	Positive	Negative
Age	47 ± 22	51 ± 14
CTR	51 ± 6	48 ± 6
SV 1+RV 5	53.7 ± 28.9	33.6 ± 10.6
LVEF	70 ± 13	74 ± 7
LVEDP	18 ± 5	16 ± 8
IVSTD	$27 \pm 4^{**}$	16 ± 8
IVS / PW	$2.3 \pm 0.8^{**}$	1.4 ± 0.5
Double Product before peak exercise	6668 ± 1455	8861 ± 1574
	21410 ± 2382	$26951 \pm 3816^{*}$

* : $p < 0.05$
** : $p < 0.01$

図4